

# 職員間の関係強化へ

## 三重・JA伊勢 人材育成に導入

## DiSC診断で対話力向上

【三重・伊勢】JA伊勢は2024年度から、新たな人材育成の取り組みとして「DiSC診断（コミュニケーションセッションタイプ診断）」と、診断結果に基づいたコーチング研修を取り入れる。職員のコミュニケーション力を高めることで、職員同士の関係性強化を図り、「長く働きたい」と思える職場風土づくりを目指す。



DiSC診断研修を受ける同JAの職員ら

「DiSC診断」とは、1920年代に米国で提唱されたコミュニケーションセッション理論。人の性格や特性、行動パターンを四つのタイプに分類し、タイプごとに適切なコミュニケーション方法を導き出す手法だ。研修を受講して、相手が「好む言動」や「好まない言動」を認識することで、職員世代間の思考のギャップを埋める効果や相手との関係性を築く能力の伸長が期待される。

同JAは4月中旬の3日間、管理職を対象に「DiSC診断」研修を開いた。研修では、専用テキストを用いて自身のDiSCタイプを導き出した後、タイプごとの特性や適切なコミュニケーション

ン方法などを学んだ。同JAの担当者は「この研修を導入することで、職員間のコミュニケーション力の向上はもちろん、組合員・利用者への対応力の向上も期待したい」と話していた。

今後は診断結果を用いたコーチング研修を行い、効果を鑑みて全職員への実施・導入を検討していく。